

氏名	河田 哲宏
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第5566号
学位授与の日付	平成29年6月30日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 機能再生・再建科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Positive bacterial culture in conjunctival sac before cataract surgery with night stay is related to diabetes mellitus (白内障術前患者の結膜嚢内細菌検査が陽性となる臨床的要因と糖尿病との関連)
論文審査委員	教授 和田 淳 教授 松下 治 教授 草野展周

学位論文内容の要旨

白内障術前患者の結膜嚢内細菌検査が陽性となる背景因子とその臨床的要因の解明を目的とした。2013年1月1日から2014年12月31日の2年間に、福山市民病院眼科で入院白内障手術を施行された連続した576眼の対象患者の医療記録をもとにレトロスペクティブになされた。背景因子として、年齢(33~100歳 平均76.7歳)、性別、高血圧・糖尿病・癌の既往、他科疾患での入院手術歴、血液感染症(B型肝炎・C型肝炎・梅毒)の有無について、結膜嚢内細菌検査の陽性群・陰性群に分けて臨床的要因を分析した。

結膜嚢内細菌検査結果は、陽性168眼(平均78.8歳)、陰性408眼(平均75.9歳)であった。陽性群ではブドウ球菌とコリネバクテリウムが主に検出された。重回帰分析の結果、年齢($P = 0.01$)、糖尿病($P = 0.004$)、他科疾患での入院手術歴($P = 0.001$)で有意差をみとめた。単変量解析・多変量解析ともにその他の因子では有意差をみとめなかった。

糖尿病や他科疾患での入院手術歴のある高齢者は、白内障術前の結膜嚢内細菌検査の陽性率が高いことが分かった。この事は術後眼内炎のリスクのある患者を考える上で、有用であると考えられる。

論文審査結果の要旨

術後眼内炎の発生率は高くないが、白内障手術や緑内障手術、硝子体手術などの眼内手術における重篤な合併症である。術後感染のリスクのある患者を見極め、眼科手術に合併する感染症を減らすために、綿棒による結膜嚢の眼脂培養検査が、眼内手術の術前検査として一般的に行われている。

本研究では白内障手術患者の結膜嚢内細菌検査が陽性となる背景因子とその臨床的要因の解明を目的として、入院白内障手術を施行された576眼の対象患者の医療記録をもとにその背景因子と結膜嚢内細菌検査陽性となる要因を分析した。細菌検査の結果、陽性168眼、陰性408眼であった。陽性群ではブドウ球菌とコリネバクテリウムが主に検出され、重回帰分析の結果、高齢者、糖尿病の既往、入院手術歴が有意差を持って細菌検査陽性に寄与していることが示された。

委員からは、術後眼内炎予防・治療における本研究の意義に関して質問があった。本研究者は「薬剤耐性菌検出による臨床的有用性」、「症例を増やした前向き研究と層別解析によってよりリスクを明らかにする研究の端緒となる」など具体例を挙げてその意義について回答した。

本研究は術後眼内炎のリスクのある患者をスクリーニングする上で結膜嚢内細菌検査が有用であることを示し、重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。